

情報とメディア

平成18年度司書教諭講習
第1回
2006年 8月11日 1時限目

1

contents

・情報とメディア

2

情報とメディア

1. 刺激と感覚
2. 情報メディアと感覚
3. メディアの流通
4. アナログとデジタル

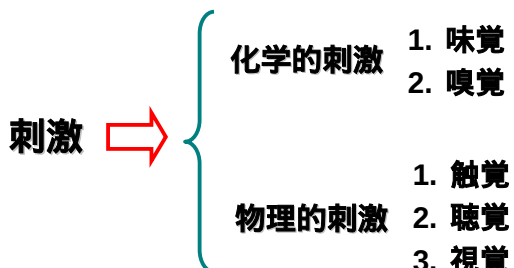
3

刺激と感覚

- 感覚 →
1. 味覚 (1.0%)
 2. 触覚 (1.5%)
 3. 嗅覚 (3.5%)
 4. 聴覚 (7.0%)
 5. 視覚 (87.0%)

4

感覚器と情報受容



5

触覚の情報受容

項目	内 容
受容箇所	指先,手のひら,足の裏(毛のない部分)
感覚の種類	機械的刺激の感覚(触圧覚)
情報分解能	2点弁別閾,実体触知

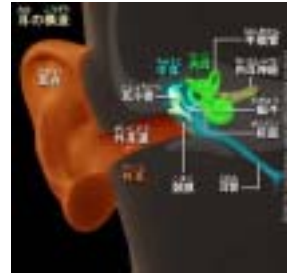
6

聴覚の情報受容

項目	内 容
受容箇所	耳
刺激の種類	波動 (振幅, 振動数, 波形)
情報分解能	強さ, 周波数 (音の高低), 音色
受容範囲	20Hz ~ 20kHz

7

耳の構造



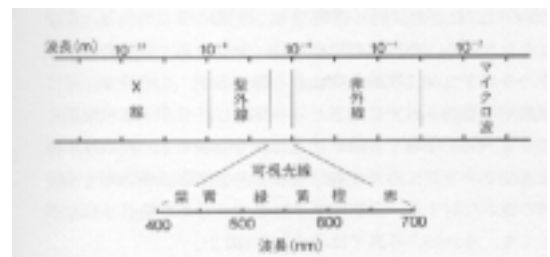
8

視覚の情報受容

項目	内 容
受容箇所	眼
刺激の種類	電磁波
受容範囲	380nm ~ 700nm
情報分解能	色相, 明度, 彩度

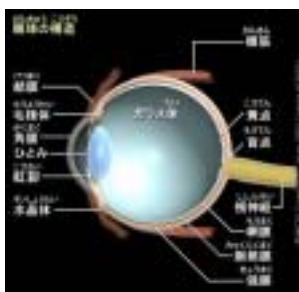
9

電磁波に占める可視光線の範囲



10

眼の構造



11

閑話休題

やってみせ
いっしょにやってみせ
さしてみせ
ほめてやらねば
うまいこと

12

情報メディアと感覚

1. 聴覚メディア
2. 視覚メディア

14

閑話休題

はじめにとはあり、いとはは神と
ともにより、いとはは神なりき。
このいとはははじめに神と
もに在り、萬の物これに由りて
成り、成りたる物に一つとして
之によらず成りたるはなし。
之に生命あり、この生命は人の
光なりき。

13

聴覚メディア

1. 記録対象
 1. 音声・音響
2. 特徴
 1. 実時間で記録・再生

15

メディアの種類

1. 蠟管 (phonogram, 1877年)
2. レコード, ソノシート
3. オープン・テープ, カセット・テープ
4. CD, MD...

16

視覚メディア

1. 文字
2. 静止画
3. 動画

17

文字

1. 記録情報の最も基本的なもの
2. 対象を概念化し、記録する
3. 概念の分析・統合 → 思考
4. 参考
 1. 「英語で表現できないものはない」?

18

メディアの種類

1. 書写材料
 1. 自然物
 2. 植物由来
 3. 動物由来
 4. 紙
 5. 樹脂
2. 形態
 1. 卷子本
 2. 冊子体
 3. パンフレット
3. 機能
 1. 図書
 2. 参考図書

19

静止画

1. 静止画を言語で説明することは難しい
 1. 「百聞は一見にしかず」
2. 文字情報よりも情報量が多い
 1. 略図
 2. モノクロ
 3. カラー
3. 欠点
 1. 視角
 2. 方向
 3. その他

20

メディアの種類

1. 写真
2. 掛図
3. 紙芝居
4. 絵画
5. ポスター
6. スライド
7. OHP
8. OHC
9. プレゼンテーションツール

21

動画

1. 連続した時間表現が可能
2. 変化の過程を表現可能
3. 連続した視点の変化を表現可能
4. 音声・音響情報との親和性
5. ある一定時間の現実(環境)の切り取り
 1. 臨場感

22

メディアの種類

1. 映画
 1. 無声映画
 2. トーキー
 3. カラー
2. ビデオ
3. LD, DVD

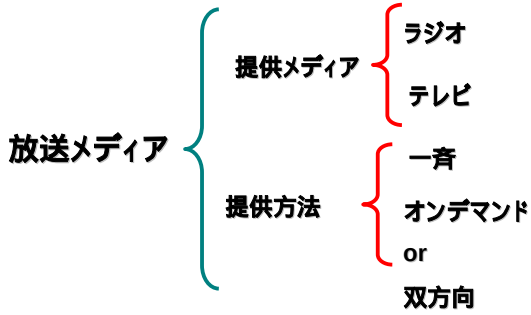
23

メディアの流通

1. 放送メディア
2. インターネット
3. 従来 of 流通

24

放送メディア



25

インターネット

1. 文字
2. 音声・音響情報 (有料・無料)
3. 静止画
4. 動画

26

従来の流通

1. 書店
2. 新聞社
3. その他

27

アナログとデジタル

1. 処理の一元化
2. 複製による劣化
3. 通信機能
4. 耐久性
5. 情報圧縮と秘匿

28

処理の一元化

項目	アナログ	デジタル
記録機材	多	多
編集機材	多	コンピュータ

29

複製による劣化

項目	アナログ	デジタル
複製	劣化する	劣化しない
補正機能	なし	あり

30

通信機能

項目	アナログ	デジタル
通信手段	郵便, fax等	LAN
通信手順	他の機器等	コンピュータに 付属

31

耐久性

項目	アナログ	デジタル
時間的耐久性	実証済み	実証されてない
その他	媒体によって保 存期間が異なる	以前の想定より 保存期間が短い らしい

32

情報圧縮と秘匿



33